

研究会大会優秀発表奨励賞

令和7年度研究会大会6 研究会合同研究発表会

画像色彩研究会, 視覚情報基礎研究会, 色覚研究会,
色彩教材研究会, 測色研究会, 美的感性研究会

優秀発表奨励賞受賞のご挨拶

Greeting Message on Receiving the Encouraging Prize

優秀発表奨励賞受賞のご挨拶

安喰 英幸 (千葉大学)



この度は、令和7年度研究会大会において、優秀発表奨励賞にご選出いただき、誠に光栄に存じます。日頃よりご指導いただいている田中緑先生、堀内隆彦先生、研究に使用したサンプルの物理計測にご協力くださった(株)オフィス・カラーサイエンス大住雅之氏、実験にご協力いただいた研究室の皆様、心より感謝申し上げます。

私たちの身の回りの物体は、それぞれ固有の質感を備えており、なかでも光の反射により生じる光沢感は、物の魅力や価値判断に強く影響する重要な要素です。光沢感に関する研究はこれまで盛んに行われてきており、実物体と画像とで知覚される光沢感が一致しない場合があることが指摘されています。このような不一致は、例えばインターネットで製品を購入する際に、製品画像と実際の見え方が異なるといった問題として表れることがあります。そのため、実物体の光沢感を画像上で正しく再現する技術を確立することは、製造業や商品販売分野にとって重要な課題です。

本研究では、実物体の光沢感が画像化によってどのように変化するのか、また実物体の光沢感を画像で再現するために必要な画像特徴量は何かを明らかにするため、2種類の実験を実施しました。その結果、実物体の光沢感は画像化により弱まる傾向がみられ、画像のコントラスト調整が光沢感の再現に寄与する可能性が示されました。今後は光沢感以外の質感にも対象を広げ、複数の質感を総合的に再現する手法の構築を目指してまいります。

日本色彩学会での発表においては、本研究の手法や結果に関して多くのご質問やご意見を頂戴し、今後の研究を進展させ、より精緻な手法へと高めるうえで大変有意義な機会となりました。また、様々な方の研究発表からも多くの知見を得ることができました。本大会で得た知見や交流を糧に、今後も研究に励んでまいります。

優秀発表奨励賞受賞のご挨拶

田内 優思朗 (千葉大学)



この度は、日本色彩学会令和7年度研究会大会において、優秀発表奨励賞にご選出いただき、誠に光栄に存じます。選出いただきました委員の皆様、厚く御礼申し上げます。また、日頃からご指導をいただいております溝上陽子先生、佐藤弘美先生、そして実験にご協力してくださった方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

私たちの視覚システムは、日常生活の多様な視環境に合わせて感度を調整する「順応」という機能を備えています。色の見え方は網膜に届く光への応答だけで決まるものではありません。これまでの研究により、知識や記憶といった高次の認知情報が、色の見え方に影響を及ぼす可能性が指摘されています。

本研究では、こうした高次の認知情報が、色の鮮やかさに対する「彩度順応」にも影響を与えるのではないかと考え、画像に写っている対象物のカテゴリによる効果の違いを検証しました。2段階の彩度レベルで変調した「順応時に呈示する刺激」と、5段階の彩度レベルで変調した「評価に用いる刺激」を用いて、「鮮やかに見える」と「褪せて見える」の境界をプロビット解析で求め、その結果をカテゴリ間で比較分析しました。その結果、カテゴリの違いが彩度順応に影響を与え、それは高次の認知情報からの影響によるものであることが示唆されました。また、それは順応時とテスト時のいずれに対しても影響を与えている可能性も考えられます。今後は、現在の実験におけるさらなる分析と考察はもちろんのこと、順応時とテスト時のカテゴリが異なる場合での検証も行う予定です。

私は学会への参加自体が初めてでしたが、数多くの興味深い発表を拝見し、大変多くの刺激を受けました。また、皆様からいただいた貴重なご意見やご質問は、自身の研究を改めて見つめ直す大変有意義な機会となりました。今回の受賞を大きな励みとし、今後もより一層精進して研究活動に取り組んで参りたいと思います。